

「今月の1枚」



写真 1



白髪山学術参考保護林のヒノキ

白髪山のヒノキ林は大正四年（1915年）に学術参考保護林に指定されました。このヒノキ林は藩政時代の御留山制度（領主が樹木の伐採や狩猟を禁じた山）の名残で、学術参考保護林に指定されていた208haだけが第二次世界大戦中の略奪と戦後の森林開発をまぬがれて今日に至っています。

この保護林内にはヒノキの根元が二股、三股になって空洞をつくっているものが数多くみられます。このヒノキの根元の空洞は前世樹の切り株の上に後継樹が育ち、その後、切り株が腐朽によって消滅したことによって形成されたと考えられています。また保護林では写真1のような感じで、ヒノキとヒメコマツやツガなどが一緒に育って大きなたこ足状の空洞が形成されたものも見るすることができます（写真1では一番手前の個体がヒメコマツになります）。

この白髪山学術参考保護林は、周囲の森林とはまるで時間の流れが異なっているかのような、そんな錯覚を起こしそうな空間です。山登りに自信のある方は、ぜひ一度訪れてみて下さい。

なお、この解説文は高知県緑の環境会議 森林研究会編（1990）「高知の森林」高知市文化振興事業団、を参考にしました。

（写真・文：酒井寿夫 2010年7月10日 本山町 白髪山にて撮影）

（No.210 2010. 8. 3 掲載）

